

2014年8月1日
ブラジル、ブラジル連邦共和国

ジルマ・ルセーフ ブラジル連邦共和国大統領閣下 殿
安倍晋三 日本国内閣総理大臣閣下 殿

日伯両国政府の要請に基づき、両国外務省を通じて発足された日伯戦略的経済パートナーシップ賢人会議（以下、賢人会議）は本日、両国経済関係の継続的強化に向けた取組みに関し報告書を提出させていただくことを光栄に存じます。

日伯関係の歴史は、両国共同プロジェクトがブラジルの国内開発を加速するなど実り多きものでした。それは、ウジミナス、ツバロン両製鉄所建設プロジェクトや、ツバロン、カラジャスでの鉄鉱石開発プロジェクトなど多くの成功例が証明するところです。

農業、造船、最先端分野を含む技術集約型製造業や情報・通信分野においてブラジルが日本企業にとって魅力的で、両国に利益をもたらす投資基盤を提供していることは明らかです。

2013年8月21日、賢人会議は、ルセーフ大統領閣下に前日開催された会議第4回会合の成果を報告し、その際、日伯両サイドが引き続きバックアップすることを前提とした今後の見通しを説明いたしました。続く同年9月3日、安倍内閣総理大臣閣下に対し日本側会議メンバーから同様の説明がなされました。

本日提出する、会議の進捗状況を記した報告書は、関係者を鼓舞し、彼らの動機づけとなる未来図を策定する重要性に触れております。賢人会議最大の目標はそれに尽きます。

次なるフロンティア・挑戦となる遠洋深海油田開発については、大規模なロジスティクスをどうするかを含め新たな技術導入が必要になります。それには相当額の投資が伴うと思われれます。ブラジルの自然災害対策に対しても同様です。日本は、しかるべき解決策を目指した分析や準備作業を踏まえ、ブラジル国内開発の新段階に参画する態勢を整えております。次なる目標に取り組むことは、日伯パートナーシップに新たな1ページを加えるものであると信じます。

賢人会議は従来、両国政府首脳に別々に報告してまいりましたが、今回は初めて同時に報告することになりました。

最後に、賢人会議全メンバーが目指すこと、「歩調をそろえて日伯二国間関係のさらなる発展に貢献すること」を改めて確認させていただきます。

座長 三村明夫

座長 カルロス・マリアーニ・ビッテンクール